

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

開催日：令和８年７月２日（木）

会 場：浦川原地区公民館

参加者：４３人

（参加者）

私は認定農業者です。農業については、大規模農業で機械化するか、スマート農業を推進する方向にありますが、浦川原区は中山間地域で田んぼの面積が小さいです。大農家も確かにいますが、１００町歩、２００町歩といった規模で耕作している農家は一軒もありません。地域の実情に合わないやり方を無理に進めると、後々問題が生じてしまうと、農業関係者の間でも懸念されています。多くの人が同じように感じており、現場の実態に即した施策を考えていただきたいと思います。また、中山間地域の田んぼは、ダムのように水を貯めて災害を防いでいます。これが機能しなくなると大災害が起こると思います。これは人の手による管理があってこそ保たれています。そうならないように、市には、小規模で耕作している農家一人ひとりに目を向けていただければありがたいです。

（浦川原区総合事務所長）

水を貯めるというのは、ため池の話でしょうか。

（参加者）

雨が降った場合に、一気に流れていく前に田んぼで水を貯めるということです。

（市長）

中山間地域の農業のあり方やサポートの話ですが、面積の小さい田んぼだけで経済的に成り立たせるのは難しいので、単に経済性だけで判断するのではなく、国土保全や国土強靱化、安全保障といった観点からさまざまな施策を行っています。直接支払交付金などを活用している農家もおられると思います。最近では市も棚田米の取組を大々的に進めるためのロゴマークを作りましたので、そうした援助やサポートを進めていきたいと考えています。担い手不足の問題もあると思いますが、交流人口を増やすほか、中山間地域支え隊といった人材を派遣して、中山間地域の農業やコミュニティの維持に力を貸してもらう対策を取っております。スマート農業の機械やドローンなども使えなくはないと思います。もちろん費用の問題はありますが、肥料散布や草刈りなどは中山間地域の小さい田んぼでもできると思います。その機械が高価だという問題があれば、何らかの支援ができるか検討したいと思います。

（参加者）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

一番高いのは農機具で、コンバインやトラクターは1台1千万円もします。元を取ることは大変です。法人等は農協等の補助金で安く機械を購入できますが、認定農業者にはそういった補助金がありません。機械が壊れたら離農するしかないので、行政の支援を検討していただきたいです。

(市長)

集約化できるところもあると思いますし、国のスキームもありますので、検討したいと思います。

(参加者)

熊沢という地域は明治17年に山で大崩れがあり、先人たちが棚田を作ってくれて、用水や防災の役割も果たしていたのですが、現在は池に水がないために農作業ができなくなってきました。総合事務所の産業グループの話で、池は県の管轄であるとのこと。過去に災害があった際、県にさまざまな調査をしていただき、この池は防災と農業用水の両方を兼ねていると市も認めています。それにもかかわらず、現状ではまったく手が加えられていないという問題があります。道がないからと言われますが、道は作ればできると思います。災害が起きないか非常に心配です。私は、集落を守らなければならないと思います。荒れた田んぼの再構築に取り組んでいますが、水がないために田んぼができません。先ほどの意見にもあったように、棚田ダムがやっぱり大事だと思います。こうした点について、県と市が連携し、それぞれの責務を果たしていただきたいと思います。そうでないと、手の打ちようがありません。農業を続けて棚田を耕作しながら生きていきたい者がいるということをご承知おきいただきたいです。

(参加者)

飲食店を営んでおり、母親の実家が大島区にあります。その隣家の高齢の方が市外の息子さんのところへ行かれることになり、家を取り壊し、田んぼもやめるということでだいぶ落ち込んでいました。それであれば、私が田んぼをやります、と手を挙げたのですが、実際にやってみると簡単なことではないと思いました。小さな田んぼですが、飲食店の仲間とやろうと思い、先日みんなで高齢の方のところに行って田植えを習ってきました。かなり高齢なので、私も今後のことを考えて、市役所と大島区総合事務所に相談に行ったのですが、案内先が行き来しました。都会の人で農業をやりたい、興味があるという人はたくさんいらっしゃいます。ただ、どうやったらいいかわからないし、機会はあってもその後どうやって農業で食べていったらいいのかもわからないのです。そういうきっかけを求めてくる若者もいるので、ぜひ間に入って、総合事務所に行けば田んぼのやり方を教えてもらえるなど、働きかけをしてほしいと思います。せっかく農業をやりたい若い人たちがいるので、円滑に相談できるシステムを考えていただければと思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

（参加者）

県では現在、園芸作物に力を入れるという方針が出ています。実際、園芸作物を導入した県では農業所得も上がっていると聞きます。もちろん土質によって向き不向きがあることは分かりますが、市として園芸作物に対する何らかの支援を行わないのでしょうか。果樹は観光にもつながりやすいと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

（参加者）

浦川原村時代にこの地域の農業を守ろうということで、農業振興公社を立ち上げました。その後、国の政策の中で担い手を育成するという考え方から大規模集約化が進められてきました。平野部ではそれがある程度功を奏しました。しかし中山間地域は同じ経済理念で図ることができません。このため、中山間地域については多面的機能を活かす取組を進めるとともに、その取組を評価する必要があるということで、かつての政権の中では直接支払制度が創設されました。しかし、政権が変わり、そういった仕組みがなくなってきました。議論があるかもしれませんが、守りきれぬ農地と守りきれない農地が、地元ではかなりはっきり分かっていると思います。実際に今の農業政策の中でも、地域の農地はどこまでを守り、どこまでを守らないのか、地域の人に相談させる仕組みになっています。このようなやり方では、結局「責任はその地域で負ってください」という話になってしまいます。もう少しどこかが手を差し伸べるやり方を考えないと、この地域の農業は多分持たないと思います。去年は米価がものすごく上がりました。その反動で今年は米価がおそらく下落するだろうという中で、平場の大規模農家でさえ経営が成り立たなくなる懸念が生じています。ましてや経済効率の悪い中山間地域では、なかなか厳しい状況です。先ほど園芸作物という話が出ましたが、この地域では雪が一番のネックです。冬にハウスなどで作れるようであれば収入は確保できると思いますが、雪が邪魔をしている面もあります。その点を考えれば考えるほど、地域の農業をどう維持していくかについて、かなり頭を悩ませた時期がありました。正直今でも自分の中で答えは見つかっていません。

（市長）

ため池に関するご意見は事実関係がよく分からないので、県の管轄か市の管轄か含めて調べさせてください。市としては当然、県と協力して対応する方針です。

また、農業に関する相談をしたかったのに案内先が行き来した、というようなことがあったとすれば、私としては残念に思いますし、お詫びいたします。新しく就農したい人のために、今年から研修機関を作りました。初めて農業に取り組む人が上越に来ていただける場合は、そこで研修を受けていただくのが一番よいと思います。

それから、園芸作物については、現在上越市でもJAが枝豆やブロッコリーを推奨して取り組んでいます。市として園芸作物に対する特別な施策はありませんが、多角化する農

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

家がいれば応援したいと考えています。果樹はやはり競争力の面で、東京の近場のほうが有利ですし、上越では意見にあったように雪の影響もあります。雑談になりますが、アスパラガスにはホワイトアスパラガスという、日光に当てずに育てるものがあり、ヨーロッパでは春に食べられて、「春が来た」と味わうそうです。春のシンボルとして生産できないかと思い、国内での状況を調べてもらったところ、北海道では作っていますが上越市をはじめ県内ではほとんど作っていないということでした。人気が出るのではないかと思ったのですが、日持ちしないことや収穫時期が短いことなどがあり、難しいようです。

そして、中山間地域の農業の維持についてですが、これは多面的機能の維持や国土安全保障の維持として、直接支払交付金があり、国もますます強化しています。市が単独で支援するのは難しいですが、国の制度を活用するほか、棚田については先ほど申し上げたロゴマークを市で作し、売り出していきたいと思っております。そういった努力を続けていきたいと思えますし、担い手についても研修機関を通じたサポートや、交流人口を増やす中で移住してくれる人が増えればよいと考えて進めております。

（参加者）

先ほど、資料の「みんなの笑顔」の視点の中で、冬の雪が多いことによる安全面の補助の話がありました。私たちは現在、直江津地区・高田地区・浦川原区の仲間で「元気の出る会」として活動しています。人数は約10名で、活動内容は後期高齢者のみのお宅の屋根の雪下ろしの補助に関する活動をしています。引き続き市のお力添えをお願いします。

（浦川原区総合事務所長）

農業に関して補足します。安塚区・大島区・浦川原区については、現在、産業グループと建設グループを浦川原区総合事務所に集約しています。産業グループには農政班があり、そこには職員の他にJAのOBである中山間地域元気な農業づくり推進員もおりますので、農業に関するご相談がありましたら遠慮なく浦川原区総合事務所へお問い合わせください。

雪の件で後期高齢者宅の雪下ろしの話が出ましたので、ここからは雪に関するご質問やご提案がありましたらお願いいたします。

（参加者）

建設業協会安塚支部では、屋根にアンカーが付いていないお宅の雪下ろしは、数年前からお断りしています。市でもしっかり補助していただきたいです。また、周囲でアンカーの設置が必要な人がいれば、どんどん勧めてください。我々も社員を守っていかなければなりませんので、屋根にアンカーが付いていないと登れないということで、ご理解をお願いします。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

（参加者）

浦川原区と牧区の区境の除雪をしていただけていますが、融雪後、傷んだ道路の補修が終わっていません。それぞれ業者も違うので、自分の管轄をやられて、区境のところへ行くとお互いそこだけやらない状況です。何とかしていただく方法がないかと思い、前回は総合事務所に相談したのですが、区がまたいでおりなかなか決まらず、見てもらっても途中で帰っていくということが多いようです。そういうところがちょっと困っています。

（市長）

雪の対策については、安全対策としてアンカーや柵の取付けに関して、補正予算で補助率及び補助金上限額を拡大しました。是非ご活用いただき、アンカーや柵を取り付けてください。

また、要援護世帯に対する除雪費用についても、金額や対象範囲について検討しており、次の冬までに対応できるように進めています。さらに大きな問題として、除雪を依頼しても業者が人手を確保できないことがあります。県では、業者が足りない場合は市を超えて、例えば上越市の隣の柏崎市から融通してもらうといったスキームや、これまで除雪をやらなかった建設業者にも新たに除雪をしてもらえるよう、勧奨を行っています。これらの施策は市も使えますから、進めていきたいと思います。技術面では、いわゆる除雪要員が今はオペレーター2人体制で行っていますが、基本的に1人でできるようにすれば人材不足の解消につながります。各種センサーなどを活用して、すでに1人のオペレーターで行っている業者もあります。そういった技術を使っていきたいと思いますし、私も今年の2月に国土交通省に行き、補助とともに除雪技術を開発してほしい、そしてその成果を各自治体に配分してほしいと要望しました。そのような技術で人手不足を防いでいきたいと思っています。

道路の補修については、市でも業者の皆さんとよく相談し、そうした切れ目がないようお願いしたいと思っています。

（浦川原区総合事務所長）

坪野の道路については、改めてこちらで現場を確認させていただきます。

（参加者）

全国的に少子高齢化の問題がありますが、最近は欧米などの価値観が日本にも浸透していて、これは難しい問題だと感じています。市政が悪いわけではなく、多くの国民に共通する価値観なので仕方がないと思います。ただ、移住者は増やせると感じており、実際に私も含め、浦川原区周辺の安塚区、大島区、牧区の移住者の方とお会いして話をしました。移住の理由は簡単に言うと自然の豊かさを求めているという印象です。また、浦川原区には昔から県外や、最近は海外からの来訪も増えています。例えば、東京の建築家や大学の名誉教授、

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

弁護士など、さまざまな人が集まる会があったり、東京都柴又との「柴又交流」など昔から自然を求めて来る人がいます。また、最近では宿泊体験施設の月影の郷で定期的に「建築トークイン上越」という全国から集まった大学生たちが地域の文化や都市のあり方などを議論するディスカッションイベントも行っています。近年はインバウンドも増えていて、旅行会社のツアーに月影の郷を訪れる行程が組み込まれており、先日もベルギーから20家族ほど来訪されたほか、新潟県内のALTらが宿泊しました。それ以外にも一般の旅行者やスポーツ合宿などの利用もあります。浦川原区は直江津や高田まで車で30分程度なので便利だと思います。その利便性を活かして中山間地域の入り口的な場所になればと考えています。移住者にとっては広い家や広い土地が格安または無償で手に入るメリットもあります。また、自然が豊かなので移住してから狩猟免許も取れましたし、集落の人から野菜をもらうこともあり、食べ物に困らないというお金ではない豊かさがあると感じています。直江津や高田が今後、便利な拠点として発展するのも素晴らしいことですが、ぜひ浦川原区に対しても、自然の中で暮らしたい移住者の受入口として、また県外や海外から訪れる人との体験・交流の場の拠点として目を向けていただけると面白いと思います。

（参加者）

中保倉小学校は閉校しましたが、宿泊施設として地元へ帰省した際の宿泊先にしたり、関係人口を増やすための施策に活用するなど検討いただきたいです。

（参加者）

今ほどの交流人口や関係人口という話は、つまり地域住民の数をどう増やすかということだと思います。私も、長年この地域で首都圏の小・中学生の田舎体験の受入れを行ってきました。子どもたちが田舎で自然を体験し、人生観の中で何らかの位置づけをすることは非常に良いことで、私たちがその体験を手伝ったという点で意義はあります。しかし、それが私たちの地域にとって何かプラスになっているのか、という点は常に疑問に思っています。正直に言いますと、民泊を引き受けるというのは、あまりありがたくないのが実情です。子どもたちと接する機会を得る喜びは確かにありますが、各家庭がそれだけの時間を割けるほど余裕はないと思います。ある程度家庭に余裕がないと難しく、私は退職後で時間があり、家族の都合もついたので可能でしたが、そうした家庭は多くありません。その証拠に、高齢化により受入れ家庭は減っている現実があります。交流人口を増やす、とよく言われますが、高齢化が進むと、受け入れがたいのが現実です。交流人口の問題はこれまでどの程度検証されてきたのか、どれだけの裏付けがあるのでしょうか。過去の取組の過程で問題点は何だったのか、成果はあったのか、それによって交流人口の減少が問題として指摘されているのか、非常に知りたいです。結果的に地域の活力が低下しているのは現実にあると思います。言葉だけ振り回してみたところで地域は全く活性化しないわけですから、その点をどうお考えでしょうか。市長の説明にも市民一人ひとりに寄り添うという趣旨があり、是非お願いした

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【浦川原区】意見交換の内容

いのですが、この地域は限界集落という言葉どおり、集落消滅が時間の問題として迫っており、楽観視できません。それに対して、我々自身も若者を送り出している面があり、地元にも責任はありますが、やむを得ずそうしているという社会環境があります。こうした状況が非常に進行している地域に対して、行政としてどのように対応していくのでしょうか。どういうお考えで、私たち過疎地に住んでいる者にメッセージを送りたいのか、その点を、先ほどの問題も絡めながらお聞かせいただけるとありがたいです。私たちは死ぬまでここに暮らしたいのです。職業選択の自由や居住地の自由は憲法で保障されています。生まれ育った場所で生涯を送りたいという思いを持っている人々に向けたメッセージをいただければありがたいです。

（市長）

交流人口について、都会や外国からの訪問も増えてきています。月影の郷はしっかりと運営されていますから、その活用は市もサポートしていきたいと考えています。今年度は宿泊室のエアコン取替え工事のほか、リネン室の換気扇も取り付けます。親戚などが帰省されたときに使っていただくのは一案だと思います。また、無理に子どもを受け入れてもらうという話ではありません。大学生や大人から来て体験してもらうという観光の一例もありますが、新しい取組が始まっています。最近国は新しいアイデアとして、二拠点生活、いわゆる地方のパスポートのような制度を打ち出しています。住む必要はなく、例えば数か月こちらに滞在するといった形です。ITを活用すればリモートワークが可能ですから、浦川原区の美しい自然を見ながらパソコンで仕事をしていただけます。数か月滞在していただければ消費も発生しますし、そういう新しい形を国や市は考えています。

人口減少につきましては、今、スマートシュリンクという言葉もあります。私の公約の中でも、市民の誰一人として取り残しません、と申し上げています。できる限り最後まで市として助けたい、という思いが私の根本にあります。その中で、市として将来的に全体をどう維持していくかということですが、今は、道路や水道、ガス網にしても、社会インフラが全部伸びきっている状態です。それらは今後、徐々に縮小せざるを得ません。糸魚川市長が「縮充」という言葉を使っていますが、縮みながら充実させていくという方法が私としてはとてもいいと思います。それをモットーに取り組みたいと思います。

（参加者）

最近、クマが私たちの生活圏で出没するようになりました。市域全体そうだと思いますが、クマが近寄ってくるのは生活上の大きな脅威です。今のところ人身被害は出ていないと思いますが、出てからでは困るので対策をぜひお願いします。20年くらい前まではクマやイノシシはこの地域にいませんでした。どこか遠い話だと思っており、他人事でしたが、最近は私の住まいの近くでも目撃されています。市からの情報はクマが目撃された場所と、周辺を搜索したがクマは発見されなかった、という内容が繰り返されているだけ

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

で、どういう対策が取られているか分かりません。この辺りはイノシシもクマもいなかったもので、猟友会の人たちが持っている銃は散弾銃しかありませんでした。今、市内に実際にクマを撃てるだけの銃がどれだけあるのか分かりませんが、そういった対応ができる体制が組まれているのか教えてください。これからの検討課題だということであれば、それでも結構です。

（市長）

広報上越等にも掲載しているとおり、体制を整えています。具体的には、これまでのパトロール体制を強化しました。職員２人で行っていたものを各区で３～４グループを組み、結果として３、４人が毎日巡回に対応できる体制にしております。また、市役所内では農業関係の課と環境関係の課が連携する体制を４月から整えております。さらに、ご承知と思いますが、緊急銃猟として市内で実際にクマの出没が確認された場合には、市長の許可を得て駆除できる体制も整えておりますので、引き続きしっかり対応してまいります。

（浦川原区総合事務所長）

補足です。今年、浦川原区ではクマの目撃が非常に多く、昨年は１年間で５件でしたが、今年は、６月末現在ですでに８件目撃されています。昨日、浦川原区内の猟友会の方と対応策を協議しました。明日には環境関係の課と農業関係の課の両課が集まり、市内全域の各猟友会の皆さんを集めて対策会議を行うと伺っていますので、先ほどのご指摘も踏まえ、適切に対応していきたいと考えています。

（参加者）

クマのほかにもイノシシやシカがいます。資源を大切にしたいという思いがあります。殺して処分するのではなく、それをジビエという形で猟師に返せるような政策をとっていただきたいと思います。先ほど閉校した学校の利活用について意見がありましたが、その給食室を開放しクレーンをつけていただければ解体をすぐに行うことができると思いますし、保健所も協力してくれると思います。駆除に対し、市から一頭当たりの単価に基づく支援をしていただいているのですが、それだけでは駆除にかかる労力や経費に見合うものではないというのが、猟師の方々の意見です。資源を無駄にしないためにも、解体しジビエとして販売できるような協力をお願いしたいと思います。

（参加者）

罾を仕掛けてイノシシやシカが結構捕れることがあります。処分する立場からすると、動物を無駄にしたくない、ちゃんと美味しくいただきたいという思いがあります。自分なりに解体しているのですが、そうすると冷蔵庫がパンパンになって入らなくなるほどです。そこで、資源を無駄にせず皆さんに安く食べていただけるように、将来的に解体処理施設を自分

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

で作りたいと思っています。ただ、施設がなかなか見つからないので閉校した学校を活用できたらと考えています。イノシシに田んぼを荒らされる農業被害の例もあるので、解体処理施設を作ることによって農業被害から少しでも地域を守れるかと思います。そういう社会的意義もあるので、ぜひ前向きにご検討いただければ嬉しいです。

（参加者）

私は、飲食店を営んでおり長野県からシカ肉を仕入れています。糸魚川市、柿崎区に解体処理施設がありますが、飲食店で提供するためには非常にハードルが高いです。個人で解体処理施設を作ろうとすると、恐らく何千万という費用がかかると思います。しかし、命をいただくということは食育にもつながりますし、万が一戦争などで牛肉や豚肉が手に入らなくなったときに、上越市には米や野菜だけでなく、肉としてジビエがあるのは大きいです。本当に豊かなところなので、場合によっては輸出できるのではないかと思います。国全体で見ると自給率は低いですが、上越市では 120%を狙えるのではないかと思います。そういう意味で、浦川原区は狩猟される方も多いと聞きますので、解体処理施設を閉校した学校の活用方法の一つとして検討いただければ、合併前上越市からも多くの飲食店が買いに来るでしょうし、販路としては十分可能性があると思います。

（市長）

私の認識では、柿崎区に解体処理施設が 1 か所あると思いますので、まずはそこを活用していただくことだと思います。これからどれだけクマやイノシシが増えるかわかりませんが、現在の頭数では市が解体処理施設を作るとするのはあまり現実的ではないと思います。

（参加者）

大島区、浦川原区、安塚区は昔から連携した地域で、地域に子どもを残すためにどうしたらよいかという課題があります。以前、この 3 区で小中一貫校を作るという話がほぼ煮詰まって構想もお聞きしていましたが、残念ながら東頸中学校に統合という形になりました。地域のミーティングの中で、高齢者から「若い人はお金があって区外に出るのではない。教育環境が悪いので子どものためを思って区外に出るのだ」と言われました。そういった経緯があって、小中一貫校を提案した経緯がありました。3 区に小学校がなくなると地域の求心力がまた低下するという問題はありますが、いずれにしても大島区、安塚区の小学生は 20 人台と少なく、3 区にこういったものを残すことが将来につながると思いますので、今一度小中一貫校について検討いただければと思います。

（市長）

小中一貫校にしてほしいという話は、実は谷浜や名立区でも出ています。率直に申し上げ

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【浦川原区】意見交換の内容

ますと、例えば大潟区には大潟町小学校と大潟町中学校があり、小中一貫校ではありませんが、実際には小中一貫校と同じで、同じ生徒が小学校から中学校までずっと通っています。したがって、大島区、浦川原区、安塚区についても、将来的に小学校が一つ、中学校が一つになれば、実際には小中一貫校だと思います。小中一貫校にすれば生徒が集まるということではないと思います。一番大事なのは子どもにとってどのような教育が最も質の高い教育を提供できるかだと思います。そうした点を中心に考えていきたいと思っております。